

# 光市医師会報

平成11年 8 月号

No. 322



光の島々Ⅱ（尾島）

光市医師会

## 〈会員報告〉

## ボストンの思い出

医陽光会 光中央病院 丸岩昌文

私が光市に帰って来て2年が過ぎました。古いアルバムを整理していると、ふとボストン留学中の写真が出てきました。私は1988～91迄、約3年間ボストンに滞在しておりました。英語も少しは勉強してから渡米しましたが、アメリカ東海岸特有のスピードの速さとアクセントをもつ英語には大変苦労しました。それでも何とか暮らして行くうちに色々楽しい思い出も出来ました。

ボストンは美しく豊かな自然の残るアメリカ北東部、ニューイングランド地方の中心で、アメリカ独立戦争～南北戦争までの重要な舞台となったアメリカ発祥の地です。ボストンの中心地には、フリーダムトレイルというアメリカ独立戦争の名所旧跡を巡るコースがあります。フリーダムトレイルとは、アメリカ最古の公園であるボストン

コモンから始まるその名の通り自由の道で、約2.5kmのコースです。ボストンコモンは多くの観光客を集めるだけでなく、ボストニアンの憩いの場となっています。私が滞在していた頃は、夏には野外コンサートがあり、スティービーワンダーなど有名なミュージシャンも多く出演していました。もちろんチケット代は日本では考えられない程格安でした。

ステイトハウス(州庁舎)の西側には、レンガ造りのヨーロッパの雰囲気漂う高級住宅地(ビーコン・ヒル)があります。その中には石だたみの小径があり、これがクローン病の内視鏡所見で有名な“cobble stone appearance”の名前の由来だそうです。

その他にもフリーダムトレイルでは、ウィリアム・ロイド・ガリソンが奴隷制度反対の演説を行ったパークストリート教会、独立戦争時、多くの思想家が演説を行ったファニエルホールなど多くの見所があります。

ボストンは他のアメリカの都市と同じく多くのスポーツのメッカでもあります。中でもNBAのチームであるボストンセルティックスは、スーパースターLally Birdを生みだしたNBAの超名門チームです。セルティックスの本拠地は



ボストンセルティックス試合風景

ボストンガーデンにあります。同センターはアイスホッケーチーム、ボストン・ブルーインズの本拠地でもあり、同じ場所でバスケットとアイスホッケーの試合があるのが不思議です。メジャーリーグのチームとしては、ボストンレッドソックスがあり、その本拠地のフェンウェイパークはアメリカ最古の野球場として有名です。今年のオールスターゲームが同球場で行われたのは記憶に新しいところです。

ボストンは文化と学術の街でもあります。ご存じの通りボストン交響楽団は世界でも指折りのオーケストラです。私がいた頃にはあの有名な小沢征爾が常任指揮者で、よく仕事を抜けて聴きにきました。ボストン美術館はアメリカを代表する美術館ですが、日本などの東洋美術のコレクション

の豊富さにも驚かされました。

また、ボストンはハーバード大学、マサチューセッツ工科大学などの世界的な名門大学を擁する学術都市であり、多くのノーベル賞受賞者を有し世界中から優秀な研究者が集まっています。かつてのノーベル賞受賞者でさえ、実績が出なければ研究室を維持出来なくなるなどという話を聞くと、その競争の厳しさが分かります。

まだまだ思い出は尽きませんが、どこの地でも少しでも長く過ごし、より多くの人と接して初めてその地の良さが分かってくる気がします。最後にボストン留学という貴重な経験をさせて戴いた久留米大学、その他の皆様に改めて心より感謝していることを加筆させていただきます。

#### 〈理事協議会①〉

### 平成11年度都市医師会救急医療担当理事協議会について

担当理事 光 武 達 夫

標記の協議会が平成11年7月22日、県医師会館において開催されましたので簡単に報告します。

#### 1. 「平成10年度地域医療・福祉事業報告」

地域医療・福祉の分野は、介護保険制度の導入の準備で今年度は明け暮れた感じがある。各保健医療圏域とも、新ゴールドプランにおける住宅サービスや施設整備の目標が、ケアハウス等を除いてほぼ達成されようとしている。

それにしても介護保険制度の細部がなかなか決まらず、これからの医療がどのようになるのか、どのように対応すべきか、見え

てこないのもどかしい思いである。

#### 2. 「平成11年度地域医療・福祉事業計画」

平成12年は、従来の医療保険制度に加えて高齢化に対応した介護保険制度が実施されるため、これまでの医療構造の大幅な見直しが行われる重大な転換期である。本年10月から要介護認定の受付が始まる。要介護者の身体状況等を「かかりつけ医意見書」に記載する。または介護認定審査に携わる等医師はこの制度において地域の要介護者の医療と介護に重要な役割を果たすことになる。

救急医療体制の整備と災害時救急医療対



策の面からみると、平成10年度において厚生省は在宅当番医制運営事業費及び病院群輪番制運営費等が一般財源化されたため、なんの前触れもなく本年度のこれらの補助金を削減してきた。この削減によって自治体の取組みや熱意が低下することを懸念し、厚生省や県へ復活を働きかけるとともに郡市医師会にも市町との強い折衝をお願いする。

### 3. 中国四国医師会連合総会

#### (第3分科会「救急医療関係」) 報告

この件に関しては県医師会報第1547号に掲載されておりますので、この度は省略します。

### 4. 「救急の日、及び救急医療週間について」

本年度は救急の日及び救急医療週道を9月9日を含む1週間(9月5日(日)~9月11日(土))と定め、救急医療の普及、啓発にふさわしい内容の行事を実施する。本年度は山口県においては救急の日の記念行事を光市

において県と周南地区の諸機関において行う。本年度のテーマは昨年度と同様「救急蘇生法の普及・啓発」を全国共通のテーマとした。知事表彰の団体部門においては、昭和32年に在宅当番医制を開始した光市医師会が選定された。

### 5. 「山口大学附属病院救命救急センターについて」

山口大学医学部附属病院に併設して高度救命救急センターが平成11年12月より運営を開始するという。国立大学に設置されるのは初めてのケースである。

基本的なコンセプトは三次救急のみを扱い、他病院より紹介のあった重症の患者のみを扱うもので初期や二次救急患者は受け入れない、要するに限られたケースのみを扱うという主旨で国民のニーズを担う救命救急センターとしたいという意向が大学側から示された。

## 情報システム理事協議会

日時 平成11年8月12日(木)午後3時~  
場所 山口県医師会

1. 平成10年度事業報告
2. 平成11年度事業報告
3. インターネットの活用について
4. 地域医療情報システム連絡協議会報告
5. 各郡市医師会のインターネット活用状況(県の要望) 現在は有効利用されていないが、将来的には保険請求事務も含めてかなりの情報交換がインターネット上で行われるので、各郡市医師会もホームページの立ち上げから積極的に行って欲しい。

担当理事 河村

## 学術講演会

日時 平成11年8月24日(火)午後7時~  
場所 光商工会館2F

### 診断困難な胸部レントゲンの2症例 (肺門部異常を中心に)

講師 赤崎 信正 先生

(症例1) 70才 女性

自覚症状がなく、健康診断にて異常陰影を指摘されるが、2年間放置し、症状の発現をみる。

(診断) 肺胞上皮癌

(症例2) 52才 男性

咳嗽・発熱が出現し、抗生剤投与にても陰影の消失に難渋した。

(診断) 細菌性肺炎  
鑑別診断 過敏性肺臓炎

## 例 会

学術講演会に続いて行われる。

近藤会長よりの説明

### 1. 来年度県医学会総会について

- 演者 1. 広島大学 小児科 上田教授  
(光市出身)  
2. 大阪大学 外科 松田教授  
(脳死心臓移植)

3. 午後の公開講座は交渉中

### 2. 9月より基本健診が始まる

本年度は自己負担なし

### 3. 介護保険関係

来月の例会にて主治医意見書解説

## 8月度定例理事会

日時 平成11年8月11日午後7時30分～

場所 医師会事務局

### (1) 救急担当理事協議会報告 (光武理事)

1. 地域医療福祉計画について
2. 救急医療への補助金カットについて
3. 災害時情報……インターネット活用
4. 警察との連絡
5. 救急の日 (本年度は光市で開催)
6. 山口大学高度救命救急センターについて

### (2) 地域医療理事協議会報告 (光武理事)

1. 介護保健制度の説明
2. 中四国連合総会について

### (3) 周東地域保健センター運営協議会報告

(光武理事)

### (4) 成人高令者

1. 感染症新法の説明
2. がん検診……精度管理、普及活動に

ついて

### (5) その他

1. 講演依頼
2. 周南地域医療対策協議会 代表→光武理事に
3. 介護保険主治医意見書説明会について (松村理事)
4. 休日診療所に関する市との連絡 (前田副会長)
5. 職員賞与について (藤原理事)

## 山口県医学会総会準備委員会

担当理事 赤崎

定例理事会に引き続き開催

### 1. 講師決定

広島大学小児科 上田一博 先生  
大阪大学外科 松田 暉 先生。

### 2. 市民ホールの使用について

3. 午後の公開講座 講師 (交渉中)

## レントゲン勉強会

日時 平成11年8月3日(火)

午後7時～8時半

場所 光市医師会事務局

講師 徳山中央病院 健診センター長  
岡本安定 先生

## 心電図研究会 (第134回)

平成11年8月20日(金)午後7時半～

光商工会館2F

症例1 56才 女 動悸 wpw症候群

症例2 72才 男 呼吸障害

症例3 66才 女 背部痛 3枝病変

いのち 作品募集

# 「生命を見つめる」

## フォトコンテスト

主催＝日本医師会 読売新聞社

日本医師会と読売新聞社は、第1回「生命(いのち)を見つめる」フォトコンテストを開催します。「生命を見つめる」というテーマに思いを込めれば、生と死を生けるものすべてが絵写録となります。個性的な作品を期待しています。

【応募規定】  
 ●制作のプリントはキヤノン製で、紙質は不定。  
 ●一人3点まで、未発表のものに限り、二重撮影やトリミングは不可。  
 ●入賞作品の著作権・著作権は一筆懸賞者に帰属します(本誌は一年間無料で復権し、その後復権いたします)。  
 ●本誌掲載やフライバナーの掲載には各自送料がかかります。

【賞】  
 ●最優秀賞1名＝30万円 ●優秀賞3名＝10万円  
 ●入賞5名＝5万円 ●佳作10名＝賞状賞品各1名

【審査委員】  
 松竹祥子(写真家)、石名誠(作家)、田沼賢一(日本写真家協会)、ロザン(歌手)ほか

【締め切り】  
 平成11年11月24日(水)必着

【入賞発表】  
 平成12年1月中旬、読売新聞紙上で。

【送り先】  
 写真の裏に、タイトル、撮影年月日、住所、名前、所属(生年月日)、職業などの事項を、必ず書き添えて送る。

〒125-8439 読売新聞社事務局発行「フォトコンテスト」  
 (TEL:03-5445-7082)へ。

### ⅢⅢ あとがき ⅢⅢ

今年の夏はカンカン照りの日が少なく、雨の多い事ばかりが思い出されます。その前兆はやはりあの鮫騒動でしょう。報道班と致しましては鮫の写真を会報に載せる事ができずにくやしい思いがしております。何か面白い事があれば御一報下さい。診察をさておいて、参じたいと考えています。県医師会報の緑陰随筆に光市より3編も投稿していただきました。御協力ありがとうございました。会員広場(市医師会報)に回せば良かったと思いましたが、後の祭りでした。

(文責 河村)

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	近藤 龍一
編集者	広報担当
印刷所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社